

- 43.かれらは目を伏せ、屈辱を被るであろう。サジダするよう、確かにかれらは呼びかけられていた。その時五体満足なのに（拒否した）。
- 44.そこでこの御言葉（クルアーン）を虚偽であるとする者をわれに任せよ。われはかれらが気付かない方面から、一步一步（墮落に）導き、
- 45.かれらを猶予するであろう。本当にわれの計略は強く確かである。
- 46.それともあなたがかれらに報酬を求め、それでかれらは負担を課せられたのか。
- 47.また幽玄界がかれらの手元にあり、それでかれらは（それを）書き下すことが出来るのか。
- 48.だから忍耐して、あなたの主の命令を待て。魚の友のようであってはならない。苦しきの余り（かれが）叫んだ時（のように）。
- 49.主からの恩恵がかれに達しなかったならば、かれは罪を負わされ、不面目に不毛の地に捨てられたであろう。
- 50.このように主は、かれを選び正義の徒の一人となされた。
- 51.不信心者は警告を聞く時、その（物凄い）目付きで、あなたを凡んど倒れんばかりにする。かれらは言う。「本当にかれは憑かれた者です。」
- 52.だが、この（クルアーン）こそは、万有のための訓戒に外ならない。

SURA 70.階段章〔アル・マアールージュ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.或る者が、下るべき懲罰に就いて問う。
- 2.不信心者は、それを防ぐことは出来ない。
- 3.階段の主、アッラーから（の懲罰）である。
- 4.天使たちや聖霊（大天使ジブリール）は、一日にして、かれの許に登る、その（一日の）長さは、5万年である。
- 5.だからあなたは、立派に耐え忍べ。
- 6.本当にかれらは、それ（日）を遠いと思う。
- 7.しかしわれは、それを近いと見る。
- 8.天が溶けた銅のようになる日、
- 9.山々は、梳いた羊毛のようになり、
- 10.誰も友（の安否）を問うことはない。

- 11.かれらは栗いに顔を合わせることが出来ない程恐れる。罪ある者はその日、自分の罪を贖うために自分の子供たちを差し出そうと願うであろう。
- 12.かれの妻や兄弟,
- 13.かれを祢った近親,
- 14.自分を救えるならば、地上の凡てのものを挙げて贖うことを請い願うであろう。
- 15.断じて出来ない。本当にかの（地獄の）炎は,
- 16.頭の皮まで剣ぎ取る。
- 17.（正義に）背を見せて、背き去った者を召喚するであろう。
- 18.また蓄積し、隠匿の金を持つ者をも。
- 19.人間は本当に忙しく創られている。
- 20.災厄に会えば歎き悲し・,
- 21.好運に会えば物惜し・になる。
- 22.だが礼拝に精進する者は、そうではない。
- 23.礼拝を厳守している者,
- 24.またかれらの富が、公正であると認められている者,
- 25.物乞いする者や耐乏する者のために（施す者）,
- 26.また審判の日の真実を確認している者,
- 27.またかれらの主の懲罰を恐れる者も。
- 28.本当に主の懲罰から、安全であると考えるべきではない。
- 29.また隠れたところ（貞節）を守る者,
- 30.かれらの妻や右手の所有する者に限っている場合は別で、罪にはならない。
- 31.しかしこれ以外に求める者は法を越えた者である。
- 32.付託されたことや約束に忠実な者,
- 33.証言に公正な者,
- 34.また礼拝を厳守する者。
- 35.これらの者は栄誉を得て楽園の中に（住む）。
- 36.今不信心者たちが、あなたの方に急いでいるのは何事か。
- 37.右からまた左から、群になって。

- 38.かれらは皆至福の樂園に入ることを望むのか。
- 39.いや、断じて出来ないことである。本当にわれは、かれらが知るものから、かれらを創ったのである。
- 40.いや、われは東と西の主によって誓う。われにとっては可能である。
- 41.かれらよりも優れた（外の）者をもって、かれらに替えてやろう。われは、失敗することはないのである。
- 42.だからあなたは、かれらを（虚栄に）浸らせ、戯れに任せるがよい。かれらが約束されている、その日の会見まで。
- 43.かれらが墓から慌ただしく出て来る日。それはまるで（現世で）かれらが偶像神へと急いだように。
- 44.かれらは目を伏せ、屈辱を被るであろう。これがかれらに約束されていた、その日である。

SURA 71.ヌーフ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.本当にわれは、ヌーフをその民に遣わし、「痛ましい懲罰があなたの民に下る前に、あなたは、かれらに警告しなさい。」（と命じた）。
- 2.かれは言った。「わたしの人びとよ、わたしはあなたがたへの公明な1人の警告者です。
- 3.あなたがたはアッラーに仕え、かれを畏れ、わたしに従いなさい。
- 4.かれはあなたがたの様々な罪を赦し、定められた期限まで、あなたがたを猶予なされます。本当にアッラーの期限が来た時は、猶予されません。もしあなたがたが分っていたならば。」
- 5.かれ（ヌーフ）は申し上げた。「主よ、わたしは夜も昼も、わたしの人びとに呼びかけました。
- 6.だが、わたしの呼びかけは、只（正道からの）逃避を増すばかりです。
- 7.わたしがかれらに、『かれが、あなたがたを御赦しになるのだ』と呼びかける時、かれら是指を自分の耳に差し込・、自分で外套を被って（不信心を）固執し、ひたすら高慢になります。
- 8.それでわたしは、声を大きくしてかれらに呼びかけました。
- 9.或る時は公に、また（或る時は）密かにかれらに（訴えて）、
- 10.わたしは言いました。『あなたがたの主の御赦しを願え。本当にかれは、度々御赦しなされる。
- 11.かれは、あなたがたの上に豊かに雨を降らせられ、